

ふれあいの祭典 丹波ふれあいフェスティバル

平成 28 年 10 月 29 日(土)、丹波の森公苑で丹波ふれあいの祭典が開催されました。会場は、イエローゾーン、ブルーゾーン、ピンクゾーン、オレンジゾーンに分かれ、それぞれのゾーンでは多彩な催しものがありました。

高校生も参加、地元の高校の生徒は、卵や花の苗等を販売し、工業高校の生徒は、兵庫県高等学校工業教育フェアにおいて、授業等で制作した作品の展示やロボット競技大会に参加してい



会場にて(江川地区の方と)

ました。また、ピンクゾーンの県民交流広場には、西播磨地区から佐用町江川地区(江川地域づくり協議会)と宍粟市千種南・北地区(千種まちづくり推進委員会)が参加していました。

江川地域づくり協議会では、佐用陰陽師の里江川の焼き栗を「丹波の栗に負けない甘くて大きい栗」でーす!とアピール。また、年間約 25 回のイベントなどに参加し、江川の栗を紹介しています。

千種まちづくり推進委員会では、千種産地鶏 100%使用、ち



千種南・北地区の皆さん

くさ地鶏つみれ汁を紹介していました。小雨の中少し肌寒さを感じたこの日のつみれ汁は、とても美味しく身体の中まで温かくしてくれました。千種まちづくり推進委員会は、交流おもてなし部会、ちくさっ子育成部会、千種の魅力発信部会の3部会を中心に、地域での活動の場を広げています。

西播磨 2 地区の活動の紹介はとても素晴らしいものでした。

【取材・文責：神戸八重子】

赤松手づくり鎧かぶとの会 (落ちない城 白旗城)

赤松地区村づくり推進委員会(上郡町)は、地区の活性化を図るために「出会い*ふれあい*いきいき赤松の郷」をテーマに、自然と歴史を活かした「共生の郷」づくりを目指し、元気の源との思いから平成 23 年度より、島根県安来市より講師を招き手づくり鎧かぶとの制作を始めました。

手づくりで制作する^{かっちゅう}甲冑は、厚紙や古布を使用し半年かけて仕上げます。制作には 2 ミリの



甲冑を着て卒業写真

厚紙をカットし、さらしを張ってニス塗りを 3 回、ペンキを 3 回塗って、1 万個の穴をあけ、平らな紐を通していきます。これが大変な作業だと、鎧かぶと手作り教室の皆さんは話されていました。11 月 23 日(水)の「白旗城まつり」を目標に 6 ヶ月かけて、自分だけの世界に二つとない甲冑づくりに精を出していました。

出来上がってからは、白旗城まつりを筆頭に上郡町商工まつり、五十波長水城(山崎町)、置塩城(姫路市)、義士祭(赤穂市)や備前市にも甲冑を着て行列に参加します。鎧かぶとづくりを通して、地域の絆を深めると共に町内外の交流を幅広く深めて行きたいと、古正好晴会長のお言葉でした。平成 28 年度を受講生 21 名、女性(5 名)男性(16 名)は 11



制作中

月 12 日(土)に、教室の隣の神社の前で甲冑を身に着け卒業写真を撮りました。又、12 月 14 日(水)には赤穂義士祭に参加、手塩にかけた甲冑は義士の町に輝いていました。鎧かぶと手づくり教室は毎年 20 名の受講生を募集しています。「他地区からの人もぜひ手づくり教室に来てください。待っています」との事でした。

【取材・文責：神戸八重子】